

いずみさの昔と今 第363回

新収蔵資料 腕用ポンプ

レイクアルスター・プラザ・カワサキ歴史館いずみさのでは、冬季企画展「新収蔵品展－泉佐野の歴史とくらし－」を開催しています。今回は、展示資料のうち南中樺井消防団が使用していた腕用ポンプを紹介します。

腕用ポンプは近代に使用された手押し式の消防ポンプで、荷車に載せたポンプを数人がかりで火災現場に運び、ポンプを降ろした後、ポンプの長い腕の両端に取っ手を取り付け上下に動かし、その圧力で放水するといふものです。ポンプは吸管と、ホースを取り付けて取水と同時に放水することができました。

現在の出火している所に放水する消火方法（注水消防）に対し、江戸時代までは火災が起きたら火元に隣接する建物を壊して延焼を防ぐという破壊消防でしたが、江戸時代にも龍吐水という木製の放水道具がありました。これは木箱にポンプがついており、箱に水を入れ横木を上下させるとポンプに付属する放水用の筒から水が出るというものです。腕用ポンプに似た仕組みですが、圧力タ

クの有無により性能に大きな違いがあり、腕用ポンプには圧力タンクが装備され安定的に放水することが可能でした。一方、圧力タンクのない龍吐水は断続的な放水になり、消防には役に立たなかつたと考えられ、むしろ龍吐水は最前線で破壊消防に従事する火消したちに水をかけることが主な目的だったともいわれています。

明治時代になると、西洋から消防機器が輸入されます。腕用ポンプも明治3（1870）年に蒸気ポンプ（蒸気機関で動くポンプ）とともに輸入されます。腕用ポンプは当初イギリス製のものが輸入され、まもなく国产化に成功します。これは「甲号ポンプ」と呼ばれ、その性能は吸引水量が1分間に270L、288L、水力は高さ約27mであり、価格は445円（現在の価格で約320万円）でした。

その後、ドイツ製の腕用ポンプをモデルに製作されたものが

シンクの有無により性能に大きな違いがあり、腕用ポンプには圧力タンクが装備され安定的に放水することが可能でした。一方、圧力タンクのない龍吐水は断続的な放水になり、消防には役に立たなかつたと考えられ、むしろ龍吐水は最前線で破壊消防に従事する火消したちに水をかけることが主な目的だったともいわれています。

明治時代から大正時代にかけて、各地で現在の消防団の前身となる「消防組」が組織されます。この消防組の設立にともない腕用ポンプも整備されていったと考えられます。こうして、近代になってそれまでの破壊消防から現在に続く注水消防へと移り変わったのです。



▲明治末～昭和期の腕用ポンプ
(南中樺井消防団使用)

レイクアルスター・プラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌平日が休館）
開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入館料 無料

泉佐野 レトロ タイムスリップ

泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

㉑学校シリーズ(1) 市立第一小学校



▲昭和26年頃の第一小学校。第一小学校は、明治5年に上善寺の堂宇を借り受けて開設されました。明治8年に現在の校地に移転し、食野家の邸宅を改修した校舎でした。

▼昭和32年頃の第一小学校。鉄筋3階建て校舎ができました。また、昭和37年には鉄筋の講堂、管理室などができました。



▲現在の第一小学校。昭和26年頃の写真と同じ石碑と、樹木の一部が現在も残されています。また道路側には、「食野宅跡」の石碑も移設されています。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中！